

技術に於ける獨創性

石原 純

現在のような非常時局に當つて、我が国では一方に於て頻りに精神の振興が称えられると共に、他方では、それとはまるで別物の如くに技術の重要性が説かれている。つまりここでは精神が多く、現実上の諸問題とはとび離れて、独自の宙に浮んで存在するかの如くであるし、同時に技術は単なる一種の技巧的熱練によつて常にその目的を達せられるようにも見られているのである。併し精神や技術に対するこのような思考の當を失っているのは言う迄もないのであつて、之等について更に正しく考えなおすことのぜひとも必要であるのは勿論である。

精神の問題については、ここで一々説いている違はないが、ただどんな精神的な活動といえども、現実の上では必ず何かしらの具体的な行為と結びつくべきものであること、そしてその上で初めて、その効果が具現すべきであることを強調しておけばよいであろう。つまり、この意味でそれはまた技術とも密接に繋がっているのである。否、むしろ技術のなかに於て之に應ずる技術的精神が生かされていなくてはならないのである。従つてかような具体的行為を離れた精神だけを、いかに問題としたにしても、それは単なる觀念的抽象的な幻影でしかあり得ないであろう。

技術に関しては、今日最も重要視せられなくてはならないのが、科学的技術であることは言う迄もない。古代の技術が専ら經驗的熟練に基いてのみ行われて居り、従つてその改良や進歩に対しては、多年の經驗や又は特殊な感覺的才能を必要としたのに反し、今日の科学的技術は主として科学的知識の応用によつて成り立つので、それは科学の極めて顯著な発達と共に短日月の間に面貌を一新することさえ稀ではない。それにしても、併しここで科学的

知識をいかに応用するかについては、多くの独創的な工夫を要するのは勿論であり、更に技術の対象が常に具体的な物体であることによつて、そこにはまだ科学的知識として抽象的に取り扱われていない種々の要素をも含んでいるので、之等を実際上適当に処理する必要も存するのである。従つて、かような科学的技術に対しても、之を進めるのには尠なからぬ苦心と努力とを費さなくてはならないのである。

そこで重要なのは、我が国に於ける技術の現状が、どうであるかと云うことである。今日では、我が国に於てもあらゆる技術が既に何れも相当の域に進み、多くの優れた技術者をそこに見出だし得ることもまた確かである。併しそれ以上に一步深く立ち入つて観察してゆくならば、恐らく誰しもがこれだけで満足であるとは感じないであろう。之等の技術に於ける獨創性が、なお甚だ不足していることが争われない事実でもあるからである。

勿論、私は我が国の技術に於て獨創性が全く缺けているとは考えないが、併し現時の激甚な國際的競争場裡に於て、技術的に対等であり得るために、我が国が多くの先進諸国に遠く及ばないことは、誰しも否定し得ないのである。ところで、若し実際にそうであるならば、我々は宜しくその由来する所以を確めて、速かに之に善処する方法を講じなければならぬわけである。

我が国の技術がまだ満足的でないことの主要な原因としては、之を西洋から輸入して以来、なお十分の年月を経ないと云う事実が先ず挙げられるであろう。實際に従来の期間に於ては、ともかくも、かような技術を学んで或る水準に達するということが何よりも急務であつたので、従つてこれ以上に獨創性を發揮する迄に立ち到らなかつたのも必ずしも無理ではない。併し今日では、既に一応はそれらの技術を獲得することができたのであるから、そうであるとするれば、もはや何時までもこの状態をその儘続けるだけでよい筈はないのである。そこで、つまりこれ以上に一步を進ましめるには如何にすべきかと云うことが、現時の最も重要な問題でなければならぬのである。

私の信ずる処では、之に対する最も根本的な劃策は、技術者養成の方法の改革であると云わなくてはならない。な

ぜなら、従来に於ては既成の技術を習得することが急務であつた上からして、その養成に際しても、おのずからそこに主眼点が置かれたのは当然であり、従つてこの場合には謂わば、公式的に技術を教えることに終始する有様であつたからである。併しこのような公式的方法では、獨創性は決して養成されないばかりか、時にはその芽生えを損なうことすらあり得るのである。獨創性を十分に伸ばすためには、之とは大いに趣きを異にした方法が探られなくてはならない。いかにすれば、それが最も有効であるかと云うことについては、なお幾多の研究を要するであろうが、ともかくも、この問題は現在の技術者養成機関に於ける極めて重大なる課題であると考えられる。我々はこの点に關し当事者の適切なる考究を望んで止まないのである。

ただ現在に於ては、一つの特種な事情が、却て之に對して或る不幸を持ち来しているかの如くに見えるのは、我々の寧ろ遺憾とする処である。それはつまり、我が国に於て事變以来、急激に多くの工業の拡充の必要に迫られ、一時に多数の技術者が要求されるに至つたことである。この事は一応は技術の普及乃至は發達に導く点で喜ぶべきことには違いないが、他方では之が行われる技術者速成の結果として、少くとも、その当座に於ける技術の多少の低下は免れない処であるし、まして上述の意味での獨創性の養成からは却て遠ざかることも当然と見られるからである。併しそれにしても、今日技術者の多数を必要とすることから見ても、なお暫らくは之を忍ばねばならぬのであろうが、そうであるからと云つて何時迄もこの状態に止まるようでは、将来に於ける技術の發展は到底望み難いに違いない。獨創性の養成の如きは、決して早急には望まれないのであつて、寧ろ氣長に之を行わねばならないのであるから、一日も速かにこの方向への氣運を促進することが極めて肝要であると考えるのである。

この他に、技術の發展を策するためには、ぜひと技術者の地位の向上を圖らなくてはならない。官庁では技術者が常に事務を総括する文官的長官の下に置かれるということが先年問題とされたことがあつたが、かような事情も何等かの点で匡正されなくてはならないであらう。事務と技術と両立すべきは当然であるが、優れた技術者は絶

対に他人を以て換えることができないと云う意味で、別に大いに優遇の道が講ぜられなくてはならないのである。我々は、我が国に於ける技術の発展向上のために、それに於ける独創性の養成と相俟あいまって、また技術者の優遇が適切に実行せられんことを切望して止まないものである。

(昭和十五年二月)

- 底本には、『科学のために』（科学主義工業社、一九四一（昭和十六）年一月二十五日）を使用した。
- 読みやすさのために適宜振り仮名を追加した。
- 旧漢字は新漢字に、旧かな使いは新かな使いに変更した。
- PDF化には $\text{L}^{\text{A}}\text{T}_{\text{E}}\text{X}_{2\epsilon}$ でタイプセッティングを行い、`dvipdfmx`を使用した。

科学の古典文献の電子図書館 「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。